

The library news

夢の図書館



2月号(如月) (第204号) 2019年2月18日発行

夢野台高校図書委員会編集B

三日月は そろぞ寒は さえがえる 小林一茶

「いよいよ今年度も残すところ、約1カ月になりました。」

この言葉を聞いていると、「このクラスで過ごすのもあと少し(涙)」「あぁ～勉強が辛くなるのかなぁ」など考える時期ではないでしょうか。そんな時こそ、思考をシンプルにするために夢の図書館へ本を読みに来てください。そして2019年、たくさん本を読むぞ!!と思っ
ている貴方は来年度、図書委員に入って下さいね。

(S.H)

図書委員のおすすめ本



「青の炎」

貴志 祐介 著

この話は、我々と同じ高校生(秀一)が何気ない生活の中で、自分の人生を狂わせた人への殺人計画を企てる話です。秀一は愛する家族を守るため、完全犯罪を企てる!! 高校生活の中で犯罪と芽生える友情。感動のクライマックスで気付く、今の環境の有難さ。

高校生の間に読んで欲しい一冊です。

(2年 S.H)

「芸人と俳人」

又吉 直樹 堀木 祐樹 著

あの「火花」でおなじみ芸人の又吉さんが、俳人の堀木さんに俳句を教わる様子が会話として収められた一冊。みなさんが俳句に抱いている、古臭いや季語がめんどろだという考えが、きっと変わる一冊です。

(2年 Y. N)





「モルグ街の殺人黄金虫」

エドガー・アラン・ポー 著

江戸川乱歩のペンネームの元になったと言われる、エドガー・アラン・ポーが書く史上初の推理小説。

人並み外れた分析力で事件を解決していくオーギュスト・デュパン。そんな彼がパリで起きた残虐な母娘殺人事件の真相を探ります。ミステリーが好きな方に一度は読んで欲しい作品です。

(うさぎ)



「もの思う葦」

太宰 治 著

太宰治のエッセイ集です。太宰治の本と云えば、暗い話のイメージが多いかと思われませんが、この本は戦時中、娘を心配する姿や妻の話など、身近に感じられます。

作家同士の話や編集者との話もあり

(S.K)



「スイッチを押すとき」

山田 悠介 著

ある一人の男性が仕事で4人の子どもの監視を任された。監視をする理由を知り、いてもたってもいられなくなった男性は・・・。

最後は誰しも衝撃の事実を知り、涙するであろう。

(H.K)



「レインツリーの国」

有川 浩 著

共通の趣味を持つ2人がネットで知り合い、距離が縮まるまであっという間だった。

しかし、会いたいと言うと彼女はどうしても会いたくないと、頑なに会うことを拒む彼女。そんな彼女にはある秘密がありました。とても感動する本です。是非読んで下さい。

(M)